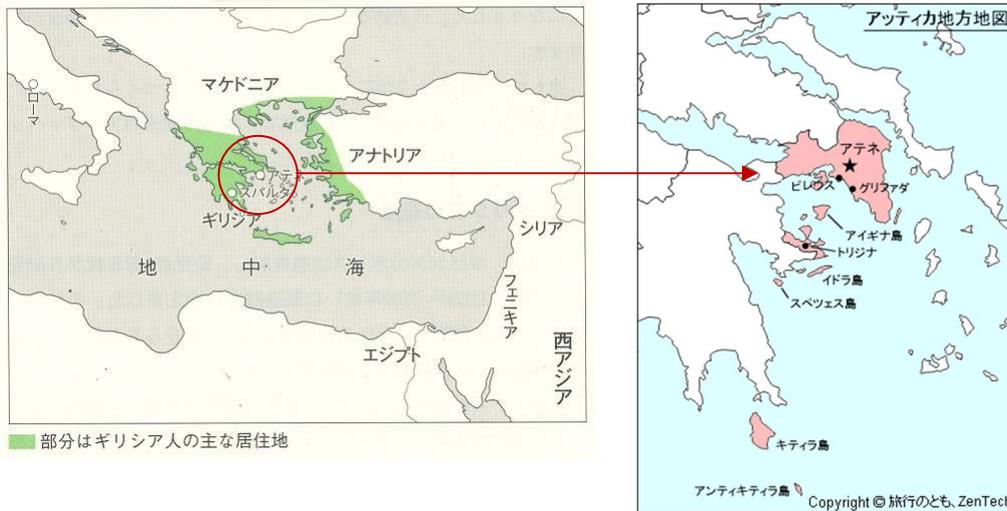


コイナー

もとはギリシアの**アッティカ地方**（アテネの周辺）の方言であったが、**アレクサンドロス大王**の東征に伴って東方に広がり、**ヘレニズム**（アレクサンドロスの帝国成立によって生まれた新たな文化[ギリシア文化+オリエント文化]）世界の共通語となった。**ローマ帝国時代**（前27年の初代皇帝アウグストゥスの即位から、実質的には395年の東西分裂まで、形式的には1453年のビザンツ帝国滅亡まで）もコイナーが東方世界との共通語として用いられた。消滅時期：4世紀（東ローマ帝国では1453年まで公用語）頃。

キリスト教の『新約聖書』は、コイナーで書かれ、ローマに入ってからラテン語※1に翻訳された。



出典 左図：そういち総研

右図：Copyright © 1997-2024 ZenTech. All Rights Reserved.

※1：ラテン語とはイタリア半島中西部の一都市の言語として生まれた言語。そこから古代ローマが勢力を拡大したことでヨーロッパのあらゆる地域で使用されるようになり、その後は書き言葉としても使われている。ラテン語は現在のフランス語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、ルーマニア語などのもとになった。現在でもバチカン市国の公用語はラテン語である。